

順天堂大学練馬病院外科だより

泌尿器科：Dual コンソールシステムによる術者教育

手術支援ロボットda Vinciは患者さんのみならず術者教育においても革新的な利点があります。Dual コンソールシステムは、手術の指導やトレーニングにおいて術者とトレーナーが同時に操作(制御)できるシステムです。これにより、経験豊富なトレーナーがリアルタイムで術者をサポートし、手順の指導やアドバイスをを行うことができます。また術者はトレーナーの手本を見ながら、実践的なスキルを向上させることが可能となります。

患者さんの安全を担保しつつ術者が経験を積み、手術の複雑な状況や様々な事態に実際に対処することで、手術での問題解決能力が向上し、術者の自信と専門性が高まります。



順天堂練馬病院では、Dual コンソールシステムを利用した教育プログラムで早期から術者として手術に参加可能です。こうした効果的かつ効率的な教育が、患者さんへ質の高い医療を提供することにつながると考えています。

泌尿器科 北村香介



消化器外科：集学的治療の時代における手術の役割

集学的治療

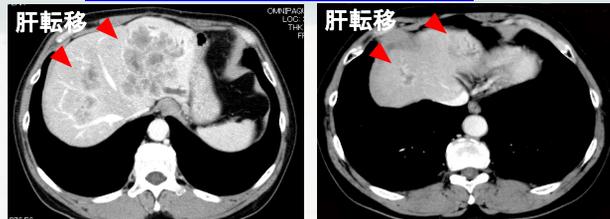
抗がん剤の進歩や重粒子線治療により、複数の治療法を組み合わせる集学的治療の時代となりました。これにより切除不能な大腸癌肝転移や膵癌に対しても、手術前後に化学療法を加えることで、治療成績が改善してきています。胆道癌も、術後化学療法を加えることで予後の改善が報告されました。

集学的治療時代の手術の役割

手術の意義は、その高い局所制御力にあります。集学的治療で癌が縮小すれば、ロボット手術をはじめとした低侵襲手術で、より小さな切除ですむ可能性が増えます。一方、進行・難治癌であっても他の治療が奏功すれば、合併切除や拡大手術(高難度手術)で根治切除をできる可能性が高まります。

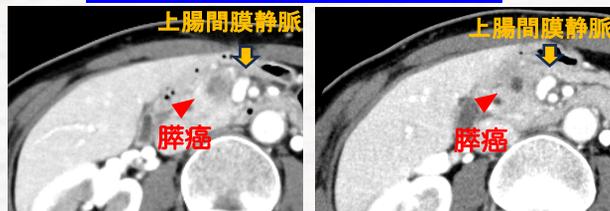
手術は**低侵襲手術と拡大手術の二極化**の方向で重要性が高まっており、当科ではそれぞれに注力しています。

大腸癌肝転移の化学療法著効例



肝臓の切除量を70%→10%程度に軽減

術前化学療法による膵癌の縮小例



血管から距離ができ、合併切除を回避

～最善の治療を提示させていただきます～

消化器外科 野呂拓史